

記念シンポ・発会式

「日本臨床宗教師会」が設立

高まる臨床宗教師への期待

被災地や公共空間で心のケアを提供する「臨床宗教師」の全国組織「日本臨床宗教師会」が2月28日に設立され、京都市下京区の龍谷大学大宮学舎で記念シンポジウムと発会式が行われた。

東日本大震災を契機に、宮城県宗教学会連絡協議会が中心となり、「心の相談室」が設置され、異なる宗

教者が遺族のケアや相談を行った。この活動を通じ、

2012（平成24）年4月

から東北大学で臨床宗教師

の養成が始まり、さらには

14年（同26）から龍谷大学、

高野山大学、鶴見大学など

でも開始され、現在、約1

50人の臨床宗教師が誕生。

今後は上智大学、愛知

学院大学、種智院大学、武

蔵野大学が養成研修の講座

発会式に先立ち、東日本大震災の犠牲者を悼み黙祷を捧げた



を開講する。

発会式で、新会長に就任

した上智大学グリーンフケア

研究所の島蘭進所長は、就

任あいさつを述べるととも

に、設立趣意書を読み上げ

た。その中で、社会から臨

床宗教師への期待も高まりつつある中、「将来的には、臨床宗教師が新しい専門職としての心のケアを実践するために、臨床宗教師研修に基づいて『臨床宗教師』資格認定制度を確立することを視野に入れて」いることを明らかにした。

この後、東北大学教授の鈴木岩弓理事が設立の経緯、同教授の谷山洋三事務局長が目的について説明。

また全国6地区にある臨床宗教師会の一つ、北海道・東北臨床宗教師会の高橋悦堂代表が抱負を述べた。

発会式に先立ち、上智大学グリーンフケア研究所の高木慶子特任教授が「臨床宗教師が、日本に根付くための教育」と題して講演。「会の設立は、日本における宗教革新をもたらす絶好の機会ではないか」と訴えた。